

(様式第2号)

協働推進モデル事業計画書

※記載が複数ページにわたっても良いので、できるだけわかりやすく具体的に記載してください。
ただし、この企画書はA4サイズ6ページ以内で作成してください。

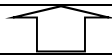
提案者	提案団体名	特定非営利活動法人岡山・ホームレス支援きずな (担当者名 新名 雅樹)					
	合同提案団体 (協議体・実行委員会等で提案される場合は構成団体をすべて記載してください。)	特定非営利活動法人おかやま UFE					
	協働する岡山市の 担当課等と担当者	課名	生活保護・自立支援課		電話	086-803-1349	
		担当	氏名	藤元 静		職名	主任
			氏名	西山円賀		職名	嘱託員
		課名	住宅課		電話	086-803-1466	
担当	氏名	岡村誠		職名	課長補佐		
	氏名	尾島健一		職名	副主査		

※以下、箇条書きなどによりできるかぎり簡潔に記載してください。

(1) 事業の目標

①解決を目指す社会問題 または実現を目指す理想	地域居住定着要支援者と地域住民がお互いを理解し日常的なつながりを築くことにより、誰もが安心して地域に住み続けることができる。 全ての人が自分で選択して住まいを確保することができる。
②約3年後に実現を目指す 社会や対象の状況	岡山市内各地の小学校区程度の区域内に設けられたカフェ等の交流場所・機会が、地域居住定着要支援者に限らず、誰もが気軽に参加できる場所として定着し、必要に応じて、社会福祉士等の専門職が相談援助や場の活性化の支援を行いながら、地域居住定着要支援者も地域住民の1人として交流することが可能となる。 また、地域居住定着要支援者が生活する地域において、地域住民の1人として人間関係が築かれ、支援が必要な人の早期発見による孤立の防止や個々の状況を踏まえた個別対応が可能となる。
③約2年後に実現を目指す 社会や対象の状況	岡山市内各地の中学校区程度の区域内に設けられたカフェ等の交流場所・機会が、地域居住定着要支援者に限らず誰もが気軽に参加できる場所として周知・理解され、社会福祉士等の専門職が相談援助や場の活性化の支援を行いながら、地域居住定着要支援者と地域住民が交流する機会の1つとなる。また、専門職による居宅への訪問等によるアウトリーチ活動や住民交流に

	<p>よる就労や居住、生活課題へのピア・カウンセリング等を行いながら、地域居住定着要支援者が生活する地域における住民等の理解を深め、地域からの孤立や困窮の予防につながる地域づくりを目指す。</p>
--	--



<p>④ 1年後に実現を目指す状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●本事業を実施する地域において、カフェ等の交流場所や交流機会に、社会福祉士等の専門職の相談援助機能が付加されることで地域居住定着要支援者と住民との交流が活性化し、地域居住定着要支援者の居住定着につながるが見える化する。 ●既存の交流場所・機会が相談援助機能のある場所として、地域居住定着要支援者にも、地域住民にも認知される。 ●本事業の登録スタッフ等による居宅への訪問等によるアウトリーチ活動や住民交流により、就労や居住、生活課題へのピア・カウンセリング等を行いながら、孤立と困窮の予防につながる地域づくりを目指す。 ●居住定着の支援があることを理解し、地域居住定着要支援者への住居提供の理解が一定広がっている。 ●相談内容や対応状況の調査・分析により、地域居住定着要支援者の地域定着の課題が明らかになる。
-----------------------	---

<p>⑤「④」の実現を阻む要因</p>	<p>(1) 地域居住定着要支援者の孤立をすすめる人間関係の希薄さ</p> <p>地域居住定着要支援者は、仕事や生活の中で生じる様々な課題や悩みを1人で抱えることが多く、自ら積極的に他者にその悩みを打ち明け理解を求めることが難しい傾向にある。また、他の地域から移り住むことを余儀なくされたような場合は、地域からみると、高齢や障がい等の心身の状態や疾病に関することだけではなく、「その人」についても分からない。このようなことが、地域居住定着要支援者である隣人への先入観や不安、偏見、無理解等を生み、地域からの孤立につながっている。</p> <p>また、疾病や障害が無い場合であっても、住民間の交流もなく孤立することが見られる。</p> <p>(2) 地域居住定着要支援者の住まいの確保における大家や地域住民の意識</p> <p>安定した住まいと暮らしは、就労や買い物、教育、福祉、医療・介護など、社会とのつながりをもち、生活を続けるための基礎である。しかし、地域居住定着要支援者は(1)の状況に加え、賃貸住宅の大家等は地域居住定着要支援者への住宅提供に不安を抱えており、本人が希望する住まいを確保できない場合も少なくない。</p> <p>(3) トータルなコミュニティソーシャルワークの欠乏</p> <p>現行の社会福祉制度は、社会福祉各法ごとに対象者の範囲や事業内容が定められ、支援が行われている。このため、社会福祉士等のソーシャルワーク専門職は、高齢者や障害者、児童など、それぞれの制度に基づく事業への従事者が大半であり、制度外で行う地域の「場」における相談援助活動を行うものは少ない。</p> <p>このような「場」における住民交流は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 多面的な課題に対するきめ細やかな支援や、グループワーク等を通じた積極的な専門的アプローチを必要とすることも多いが、住民の自発性のみで運営され、交流の目的を果たせないことも多く、
---------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> また、定住期間が短い、その地域での生活歴がないなどの場合には参加しづらいなどの課題がある。 <p>居宅への訪問は、近隣者等の善意による活動が多く、必ずしも継続的に行われるものではない。</p>
<p>⑥「⑤」を示す情報又は仮説（調査結果、当事者の声、他地域との比較など）</p>	<p>岡山市一時生活支援事業において、年間100人程度の実利用者の実態、またNPO法人岡山・ホームレス支援きずな（以下、「きずな」という。）が支援に関わった居宅生活者100名の実態からは次のようなことが明らかとなっている。</p> <p>①野宿生活や住居を失った人々が自立する場合、自立までのハードルが高いことはもちろん、自立後もその住まいのある地域での生活歴がなく、親族や友人知人などもないため、人的交流が希薄になり孤立することが大変多い。</p> <p>②孤立によるメンタルの不調などから、就労継続が困難となり失業する場合や、飲酒やギャンブルへの依存など、孤立した状態から再度困窮することが見られている。</p> <p>③単身生活者は孤立感や寂しさを訴えることが多いが、人的関係を構築する術のなさや、人間関係構築の苦手さが見られ、更に、身体的自立度の高い場合は、既存の社会福祉制度等での支援を受けられないため、ますます孤立することが起きている。</p>

（２）本事業の内容

<p>⑦「⑤」の中から本事業で解決を目指す要因と事業の内容</p>	<p>（要因）</p> <p>①地域居住定着要支援者への無理解や偏見が生じていること。</p> <p>②既存の社会福祉制度は児童、障害者、高齢者など、社会福祉六法各法に基づく、それぞれの支援体系であり、現行制度下では、補うことが難しい地域住民が生じていること。</p> <p>③地域居住定着要支援者の支援を必要とする者と一般の地域住民等を結びつけるためには、現行の社会福祉制度の枠外において、孤立の進行や予防を防ぐための専門職を交えた積極的な交流の場作りや居宅へのアウトリーチ活動が必要であるが、専門性や財政的な観点から取り組みが進まないこと。</p> <hr/> <p>（事業）</p> <p>本事業で活用できる社会資源の一定の集積がある岡輝学区及びその周辺地域をモデル地域として次の事業を行う。</p> <p>（１）地域交流の場の機能強化</p> <p>① きずな「安楽亭」、UFE「うてんて」、岡輝みんな食堂の連携運営</p> <p>各団体が、個別に行っていた交流場を連携して本事業に取り組む。各団体の場の特色も生かすとともに年齢や疾病などの枠を越えた利用を促進する。またこれまで地域居住定着要支援者に関心のなかった地域住民との交流を促進する。</p> <p>※安楽亭：毎週火曜日 9時～12時 毎週土曜日 9時～12時 毎週日曜日 15時～19時</p> <p>※うてんて：毎週土曜日 17時～21時 毎週日曜日 17時～21時</p> <p>※岡輝みんな食堂：不定期</p> <p>② ①の交流の場における社会福祉士等による個別相談を行う。</p> <p>③ ①の交流の場において社会福祉士等による交流サポート及びピア・カウンセリングを目的としたグループワークを実施し相互支援の体制づくりを行う。</p> <p>④ ②③の中で把握された地域居住定着要支援者の抱える仕事や生活などの課題や悩みにつ</p>
-----------------------------------	---

	<p>いて必要な支援を行い、住まいの確保や孤立の予防を進める。</p> <p>(2) 地域居住定着要支援者の訪問支援（アウトリーチ）</p> <p>交流の場に参加する地域住民の希望や近隣住民の要請によりアウトリーチ活動を実施する。当事者等を含めた訪問スタッフを登録し、スタッフによる訪問や声掛け等を実施する。</p> <p>(3) 調査・分析事業</p> <p>交流の場やアウトリーチ活動で得られた地域居住定着要支援者が抱える課題を分析し、今後の支援施策や地域づくりの課題を提案する。</p> <p>(4) 啓発事業</p> <p>①地域居住定着要支援者の実態や課題、交流の場の取組等について町内会や民生委員・児童委員、不動産業者や大家等、専門機関、支援団体等の関係機関に呼びかけて学習会を開催する。 ⇒平成30年8月</p> <p>②(3)の調査結果や交流の場の取組による成果報告会・学習会を開催する。 ⇒平成31年2月</p> <p>(5) 地域居住定着要支援者の居住支援をすすめるネットワーク会議（仮称）の定例会の開催</p> <p>本事業の実施団体、協力団体、関係機関等のネットワーク会議を行い、通年で情報交換、意見交換、ケーススタディを行う。また、協力団体等を増やし、今後の支援の幅を広げていく。</p>
<p>⑧事業の有効性を示す根拠（当事者のニーズ、他地域の成功事例など）</p>	<p>既存の社会福祉制度においては、児童、障害者、高齢者それぞれの施策での支援体系となり、特に心身の自立度が高い住民に対しては福祉的支援が関わりにくい状態である。一方で、厚生労働省の示す「我が事・丸ごと」の地域共生の推進や支援や地域包括ケアシステムにおいては、すべての住民が積極的にかかわりやすい場や、支え手・受け手の隔たりがなく役割を持ち、支え合いながら、自分らしく活躍できる地域コミュニティを育成し、公的な福祉サービスと協働して助け合いながら暮らすことのできる活動が求められている。</p> <p>こうした観点から、本事業は従来の取組では補いきれなかった住民に対する孤立対策や居住支援、就労支援にもつながりやすく、地域居住定着要支援者の支援の視点にさらに地域共生社会の実現に向けた一助になると考えられる。</p>
<p>⑨提案事業の成果を測定する指標（定量・定性の両方またはいずれか）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流場の参加者数 ・ 新規の交流場数 ・ 相談者数（実人数、述べ数） ・ 居住定着率 ・ 居宅訪問者数 ・ 協力団体数（地域団体、企業、不動産会社など） ・ 支援者側に登録された人数

(3) 協働の必要性和実施体制

	提案団体	担当課
事業の役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ①交流の場の提供と運営 ②交流の場での地域居住定着要支援者への相談支援 ③交流の場でのグループワークやピアカウンセリングの実施 ④交流の場での交流促進、活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ①関係部署との連携 ②関係機関への協力依頼 ③将来的な行政施策へ向けての情報収集 ④地域住民等への当該取組の周知及び当該取組の目的を達成するために必要な啓発

	<p>⑤訪問支援のスタッフの登録と育成、派遣</p> <p>⑥交流の場、協力団体の開拓</p> <p>⑦居住支援についてのニーズ収集・分析と課題提案</p> <p>⑧啓発事業の企画・運営</p> <p>⑨ネットワーク会議の運営</p>	
<p>役割分担の理由 (それぞれが持つ経験、実績、情報、当事者性など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●異なる専門性を有する団体が連携することで、地域居住定着要支援者が抱える様々な課題や悩みに対応することが可能となる。 ●支援対象（年齢、障がいの種類など）が異なる団体が共同して実施することで、年齢や疾病の有無などの枠を越えて、参加や交流が可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域包括ケアシステムの構築や地域共生社会の推進と切り離せない事業であり、庁内の関係部署との連携を行うことが必須である。 ●低額所得者や障害者等の住宅確保要配慮者の居住の安定を目的としており、新たな住宅セーフティネット制度が開始する中で、住宅部局と連携し、当該制度における取組や施策との一体的な展開を図る。
<p>協働効果を高めるための工夫（目的や情報共有の方法など）</p>	<p>関係者が共通認識の下で、本人に適した伴走や支援を可能とする体制を構築するための取り組みが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●訪問などの支援内容や情報共有等について、共通の手法を構築する。 ●交流の場の担当者（社会福祉士等の専門スタッフ）会議を定例開催する。 ●個々の関係団体が把握している地域居住定着要支援者の情報について、ネットワーク会議の定例会等で共有するとともに、支援が必要な地域居住定着要支援者の情報（生活状況、支援の状況、抱えている課題等）を随時把握し、適時適切な支援につなげる。 	
<p>その他に連携が必要と思われる対象と期待する役割（あれば記載）</p>	<p>名称</p>	<p>役割</p>
	<p>全団体</p>	<p>ネットワーク会議定例会出席</p> <p>情報提供・情報共有</p>
	<p>岡山市立岡輝公民館</p>	<p>交流場の提供</p> <p>地域住民団体、公民館利用者への普及・啓発</p> <p>岡輝よりそいの会との連携</p>
	<p>岡輝みんな食堂プロジェクト</p>	<p>支援連携</p> <p>交流の場の提供</p> <p>相談・支援情報の収集</p>
	<p>一般社団法人ほっと岡山</p>	<p>支援連携</p> <p>東日本大震災被災避難者に関する情報提供</p> <p>事務局</p> <p>調査集計業務</p> <p>定例会・担当者会議通知・議事録</p> <p>ニュースレター作成・発行</p>

		チラシ作成発行
	岡山市寄り添いサポートセンター (岡山市社会福祉協議会) NPO法人おかやま入居支援センター NPO法人子どもシェルターモモ NPO法人フードバンク岡山 (株) かいしゃ (株) ケンジャミン・フランクリン 阪井土地開発 (株)	支援連携
	岡輝学区地域住民組織 連合町内会 社会福祉協議会 民生委員児童委員協議会	情報の収集・共有 啓発
	一般社団法人岡山県宅地建物取引業協会 一般社団法人岡山県不動産協会 一般社団法人岡山県社会福祉士会	支援連携

(4) 事業スケジュールについて

※自由に枠を追加・結合・分割してご記入ください。

時期	実施内容など			
	交流の場の運営と相談対応訪問等	調査・分析	定例会(ネットワーク会議・担当者会議)	啓発事業
5月	<ul style="list-style-type: none"> ●交流拠点紹介チラシの作成 ●交流の場の相互見学 ●訪問スタッフの募集・登録 ●相談票集計、担当者打ち合わせ会議 	<ul style="list-style-type: none"> ●相談表(調査シートの作成) ●研究者との協議 	ネットワーク会議準備会 第1回担当者会議 (相談票集計、担当者打ち合わせ)	ニュースレター①
6月	①きずな「安楽亭」での相談対応等 毎週火曜日 9時～12時 毎週土曜日 9時～11時 毎週日曜日 15時～19時		第2回担当者会議	
7月			第1回ネットワーク会議兼第3回担当者会議	ニュースレター②
8月		②UFE「うてんて」での相談対応等		第4回担当者会議

9月	毎週土曜日 17時～21時 毎週日曜日 17時～21時		第2回ネットワーク会議兼第5回担当者会議	ニュースレター③
10月	③岡輝みんな食堂での相談対応等 不定期 ④居宅への訪問相談（随時）	相談票集計、集計情報の中間まとめ	第6回担当者会議	
11月			第3回ネットワーク会議兼第7回担当者会議	ニュースレター④
12月			●第8回担当者会議	
1月		相談票集計、実施報告作成と会議	第4回ネットワーク会議●第9回担当者会議	ニュースレター⑤
2月			●第10回担当者会議	フォーラム（成果報告含）

（5）次年度以後の事業展開

<p>次年度の事業展開 （「約2～3年後に実現を目指す社会状況のイメージ」をふまえて）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 岡山市の一般施策としてより安定的かつ広範囲に展開していくことを目指す。 ■ 提案団体の自主事業として収益を得て継続・拡大していくことを目指す。 ■ 市民協働推進モデル事業として事業を継続しつつ、次々年度の一般施策化へ備える。 □ 市民協働推進モデル事業として事業を継続しつつ、次々年度の自主事業化へ備える。 □ その他（ ）
	<p>具体的な事業の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「交流の場」への参加を通じて地域住民が自ら地域の事を解決することを意識する契機となることを目指し、地域支援者の支援にも取り組む。 ● 地域居住定着要支援者への支援に理解・協力いただける地域住民を増やしていくとともに、地域保健医療や金融機関、小売店、不動産会社等とも連携し、地域で暮らしに関わる方の理解を深める。 ● 居住定着のために、地域居住定着要支援者が抱えている、ちいさな暮らし辛さの現状を収集し、課題解決に向けて取り組む。 ● 相談内容を集約して、整理して、居住定着のための課題整理につなげる。
	<p>具体的な事業の内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 居住に関する相談支援 ● 居住定着に向けての互助づくり ● 居宅に訪問するなどによる見守り、生活支援（一定期間）

(様式第3号)

協働事業収支予算書

提案事業名	住まいと暮らしに困りごとを抱えている人の居住定着を目指す相互支援・相談支援事業
-------	---

<収入>

費目		金額	内 訳
自己資金等	申請団体 自己資金		
	合同提案 団体負担金等		
自己資金合計 (a)		0 円	
事業収入			
事業収入合計 (b)		0 円	
岡山市補助金申請額 (c)		2,000,000 円	
収入合計 (d) = (a) + (b) + (c)		2,000,000 円	

<支出>

費目		金額	内訳
事業実施経費	人件費	1,394,000円	●安楽亭相談・支援対応等（社会福祉士等） 1人×週9時間28週×2,000円=504,000円 ●うてんて相談・支援対応等（社会福祉士等） 1人×週10時間×28週×2,000円=560,000円 ●岡輝みんな食堂相談・支援対応等（社会福祉士等） 1人×月5時間×7ヶ月×2,000円=70,000円 ●居宅への訪問相談登録スタッフ 1件×1時間×200件×800円=160,000円 ●居宅への訪問相談（社会福祉士等） 1件×1時間×50件×2,000円=100,000円
	講師謝金	60,000円	調査分析アドバイザーまたはフォーラム講師
	印刷製本費	120,000円	案内チラシ @10×2,000枚=20,000円 ニュースレター @10×1,000枚×5回=50,000円 報告集 @200×200冊=40,000円 相談票・会議資料等コピー 10,000円
	通信運搬費	10,000円	会議通知等送付用 切手 10,000円
	食糧費	10,000円	会議用茶葉等購入費 10回×1,000円
	消耗品費	86,000円	のぼり旗 10,000×6本=60,000円 事務用品 26,000円
	事業実施経費合計（e）	1,680,000円	
管理運営経費	人件費	300,000円	事務局人件費 300,000円 @1,000×（集計5時間+会議運営5時間+ニュースレター作成5時間+会議録作成・案内通知5時間+その他10時間）×10か月
	消耗品費	20,000円	事務局消耗品費 20,000円
管理運営経費合計（f）	320,000円		
総事業費（g）＝（e）＋（f）	2,000,000円		

（添付書類等）

- ① 人件費等については、積算の根拠（これまでの実績や独自の単価表）を添付すること
- ② 参加料などの事業収入を見込む場合は「事業収入見込」欄に計上すること

団体の概要書

団体名	(ふりがな) とくていひえいりかつどうほうじんおかやま・ほーむれすしえんきずな 特定非営利活動法人岡山・ホームレス支援きずな						
所在地	〒700-0821 岡山県岡山市北区中山下一丁目5番25号						
代表者職・氏名	(役職) 理事長	(ふりがな) うの みのる (氏名) 宇野 稔					
	(役職) 理事・事業管理者	(ふりがな) しんみょう まさき (氏名) 新名 雅樹					
事業担当者	電 話	086-221-2822		FAX	086-201-5508		
	E-mail	shimmyo.csw@gmail.com					
	活動開始年月日	年			月		
活動期間	年		か月	(平成30年3月末日現在)			
設立年月日	2011	年		12	月		
団体の目的	この法人は、ホームレス状態になるおそれのある人々、ホームレス状態に置かれた人々に対して、さまざまな社会資源を利用し、居住の場の確保、就業の機会の確保等自立支援に関する事業を行うことにより、安定した生活の維持を実現し、全ての住民にとって好ましい町づくりの推進に寄与することを目的とする。						
主な活動(事業)	<ul style="list-style-type: none"> ・野宿生活者や地域居住定着要支援者への衣食住等の支援(「安楽亭」での炊き出し、当時の会や夜回り事業) ・岡山市委託事業(生活困窮者一時生活支援事業)、岡山保護観察所委託事業(自立準備ホーム)の運営 						
組 織	正会員数		148人		賛助会員数	125人	
	役員数	6人	職員数	常 勤	3人	内有給	3人
	内有給	1人		非常勤	2人	内有給	2人
主な活動地域	岡山市		会員の入会条件		法人の活動趣旨に賛同する方		
事業の規模 (実施回数)	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ毎日		<input type="checkbox"/> 毎週 回		主な対象者		ホームレス状態にある方
	<input type="checkbox"/> 毎月 回		<input type="checkbox"/> 年 回		参加者数(年間延べ)		12,000人
団体の財政状況	経常収入 経常収益	会費	712,000円	事業収入	47,363,716円	収入合計	49,864,375円
		寄付金	1,126,556円	その他	662,103円		
	経常支出 経常費用	事業費	45,052,263円	管理費	0円	支出合計	45,052,263円
		管理費	0円				
資産・負債	資産	16,585,485円	負債	3,847,054円	正味財産計	12,738,431円	
広報関係の有無	会報・広報誌		<input checked="" type="checkbox"/> 有(年1回発行)			<input type="checkbox"/> 無	
	ホームページ		<input type="checkbox"/> 有(URL:)			<input checked="" type="checkbox"/> 無	
	ホームページで公表している情報にチェックを入れてください。						
<input type="checkbox"/> 事業報告		<input type="checkbox"/> 決算書		<input type="checkbox"/> 活動状況		<input type="checkbox"/> その他()	
過去の協働事業や助成金、委託を受けた実績(企業や大学については公益活動についてののみ記載)	<p>※これまでに岡山市や他の行政機関から事業を受託したことがある場合は、事業名・委託契約先名・受託時期を、また、これまでに岡山市や他の行政機関、民間団体等から助成金を受けたことがある場合は、名称、助成団体、金額、時期等を記入してください(過去5年間程度)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山市ホームレス対策事業(岡山市:平成21年12月~平成27年3月) ・岡山市生活困窮者一時生活支援事業(岡山市:平成27年4月~平成30年3月) ・ホームレス等困窮者への地域生活継続支援事業(独立行政法人福祉医療機構:7,000,000円:平成24年) ・育ち合う中で生活困窮が地域の担い手となるプロジェクト(ファイザー製薬:2,480,000円:平成25年) ・地域から孤立をなくそうささえあいプロジェクト(赤い羽根共同募金:1,600,000円:平成27~29年) 						

※次の資料を添付してください。①役員名簿 ②団体の定款・規約・会則等 ③前年度活動報告及び活動(収支)計算書 ④その他団体の内容がわかる資料
(様式第4号)

団 体 の 概 要 書

団体名	(ふりがな) とくていひえいりかつどうほうじんおかやまうーふえ 特定非営利活動法人おかやまU F E						
所在地	〒700-0921 岡山市北区東古松四丁目4番22号サクラソウ501号室						
代表者職・氏名	(役職) 代表理事	(ふりがな) みずたに けん (氏名) 水谷 賢					
	(役職) 理事・事業管理者	(ふりがな) ながまつ ちえ (氏名) 永松 千恵					
事業担当者	電 話	086-231-0841			F A X	086-231-0842	
	E-mail	sumasapo@utenti.click					
活動開始年月日	平成 25	年	11	月	17日		
活動期間	4	年	3	か月	(平成 30年 1月末日現在)		
設立年月日	平成 27	年	5	月	1日		
団体の目的	<p>疾患や障がいがある人々に対して、患者やその家族と共に、その専門性をいかして、医療、福祉、居住、就労等の支援事業を行い、もって、疾患や障がいがある人々にとどまらず、すべての人々が安心してその人らしい生活を送ることができる地域社会の形成に寄与することを目的とする。</p> <p>上記の目標を達成するため、次に掲げる種類の特定非活動を行う。</p> <p>(1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動 (2) まちづくりの推進を図る活動 (3) 人権の擁護又は平和の推進を図る活動 (4) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動</p>						
主な活動(事業)	<p>(1) 上記の目的を達成するため、次の特定非営利活動に係る事業を行う。障害者総合支援法に基づく障害福祉サービス事業 (2) 障害者総合支援法に基づく相談支援事業 (3) 精神保健・医療・福祉・居住・就労等に係る相談事業 (4) 地域支援ネットワーク事業 (5) 偏見除去のための啓発活動 (6) その他、この法人の目的を達成するために必要な活動</p>						
組 織	正会員数		13人		賛助会員数		人
	役員数	11人	職員数	常 勤	0人	内有給	0人
	内有給	0人		非常勤	4人	内有給	4人
主な活動地域	岡山県内			会員の入会条件			
事業の規模 (実施回数)	<input type="checkbox"/> ほぼ毎日	<input type="checkbox"/> 毎週	回	主な対象者			
	<input type="checkbox"/> 毎月	回	<input type="checkbox"/> 年	回	参加者数(年間延べ)		
団体の財政状況 (平成29年3月31)	経常収入 経常収益	会費	100,000円	事業収入	379,400円	収入合計	7,709,950円
		寄付金	10,200円	その他	7,220,350円		

日現在)	経常支出	事業費	6,045,363 円	管理費		支出合計	7,445,657 円	
	経常費用	管理費	1,400,294 円					
	資産・負債	資産	1,047,083 円	負債	687,070 円	正味財産計	360,013 円	
広報関係の有無	会報・広報誌	<input type="checkbox"/> 有 (年 回発行)					<input checked="" type="checkbox"/> 無	
	ホームページ	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (URL : http://utenti.click)					<input type="checkbox"/> 無	
	ホームページで公表している情報にチェックを入れてください。							
	<input checked="" type="checkbox"/> 事業報告	<input type="checkbox"/> 決算書	<input checked="" type="checkbox"/> 活動状況	<input type="checkbox"/> その他 ()				
過去の協働事業や助成金、委託を受けた実績(企業や大学については公益活動についてのみ記載)	<p>※これまでに岡山市や他の行政機関から事業を受託したことがある場合は、事業名・委託契約先名・受託時期を、また、これまでに岡山市や他の行政機関、民間団体等から助成金を受けたことがある場合は、名称、助成団体、金額、時期等を記入してください(過去5年間程度)。</p> <p>独立行政法人福祉医療機構 6,342,000 円 平成 28 年度「障がい者と家族が障がい者と家族を応援する事業」</p> <p>国土交通省 6,400,000 円 平成 29 年度「多世代交流型住宅ストック活用推進事業」</p>							

※所属する法人・団体毎に記載してください。組織・財政状況等は前年度末時点のものを記載してください。(該当しない部分は空白で結構です。)

※次の資料を添付してください。①役員名簿 ②団体の定款・規約・会則等 ③前年度活動報告及び活動(収支)計算書 ④その他団体の内容がわかる資料